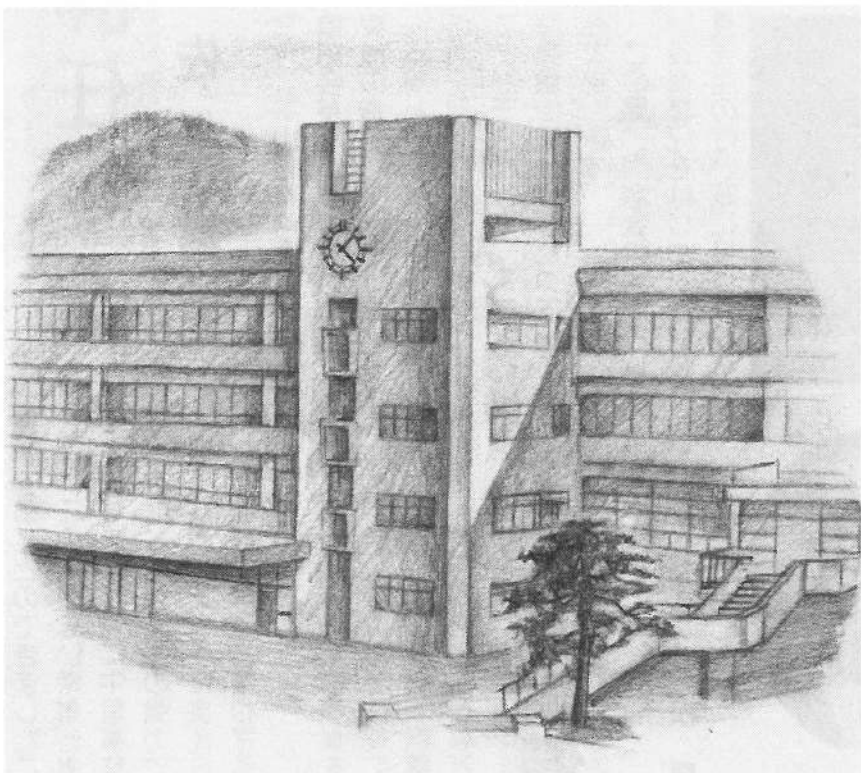


桐 雷

編集発行 第3号
 群馬県立桐生工業高等学校
 同窓会事務局 編集部
 群馬県桐生市西久方町1-1-41
 TEL 0277 (22) 7141
 印刷 湯浅印刷有限会社



就任の挨拶

第六代同窓会長

五十嵐 健雄

野山の錦に心せかれて、晩秋の季節となりました。同窓会員の諸兄には益々ご健勝の事とお慶び申し上げます。去る六月二十日、桐生市産業文化会館に於いて開催されました平成三年度総会の席上第六代会長に選出されました。勿論浅学非才にしてその器ではありません。よって、責任の重さをひしひしと感じております。

私に与えられた責務でございます。事の重大さを痛感致しております。今後の運営方針と致しましては、

- (一) 前会長の方針を引継ぎ残された市内数支部の設立を完了すること。
- (二) 既に設立されている支部の、内外のより一層の交流、交歓を図ること。
- (三) 市外の支部設立を検討し、出来る所から実施に移したい。
- (四) 同窓会報「桐雷」の、より一層の充実を図りたい。

前会長、佐藤富三氏は十一年三ヶ月の長きに亘り本校同窓会の発展に多大の貢献を賜りました。特に本校創立五十周年記念事業を立派に成功させ、引続いて支部設立に意欲を燃やし、市内に於いては一部を残すのみとなりました。今までの功績を称えんと共にそのご苦労に深く感謝し厚く御礼申し上げます。

会長の不徳は、先に申しあげましたが、幸いなことは、有能な本部並びに支部役員の方々に、元老格の先輩の皆さんに恵まれておることです。

本校同窓会員は、既にご案内のように一万五千有余名を擁しております。桐生市内に於いてはもとより各地に於いて、各界、各層、夫々の分野で活躍し、その地域の発展に大いに寄与しております。この立派な同窓会の要となり、今後より一層発展させる事は

加えるに、同窓会に深いご理解を戴き、積極的に援助して下さっている、樽井校長先生を始め事務局担当の先生方です。この様な条件の整った背景があります。会員諸兄の絶大なご援助をお願い申し上げます。就任のご挨拶と致します。

会長を辞任して

前同窓会長 佐藤 富三



去る六月二十日、同窓会の定例総会において、次期会長に五十嵐健雄さんを推せんしたところ、万場の拍手をもとに議決され第六代会長に就任されたことは、同窓会として何よりもすばらしい良識ある決定と喜んでおります。

五十嵐新会長は、長い間、副会長として会長を補佐し活躍されてきました。見識はもとより人柄も申し分なく、会社経営者としても立派な業績をあげておりまして、三拍子揃った人物として今後大いに前途を嘱望されるところであります。何卒、皆様の絶大なご後援を賜りますようお願い申し上げます。

顧みますと、昭和五十五年

三月、下山蔵司前会長から筆頭副会長という故をもつて、突然の指名を受けて以来、十一年間という、少々長すぎる任期を何とか大過なく努めることができてまして、まことに感無量の境地にひたつております。

この間、同窓会のすばらしい役員諸兄をはじめ、歴代校長先生のけい咳に接しながら



総会にて感謝状贈呈

運営することのできましたことは、この上もない幸者と思っております。特に中里事務局長をはじめ諸先生の強力で、心強いバックアップに支えられたことは、好運と言わざるを得ません。

創立五十周年の記念事業をはじめ、支部設立がその緒についたこと、同窓会報「桐雷」が復刊発行できたことなど、

施設・設備の整備状況

校長 樽井 哲



同窓会の会報が昨年に引き続き発行されますことは、発行の定着ということからすばらしいこととあります。学校としましては、同窓の方々の絆を太くするという意味からもうれしく思っております。

近年、桐工の施設・設備が急ピッチで新しくなっており

多少の足跡を残すことのできたのも、役員、支部役員、学校側の総力をあげた暖かいご声援の賜と心から感謝申し上げます。

最後に、二十一世紀に向けて本校同窓会が、すばらしい躍進をされますよう祈念申し上げ、御礼のことばにさせていただきます。

ますのでその主なものについて紹介いたします。

コンピュータについては、ホストコンピュータ、ミニコンピュータのほかパソコンが約一〇台平成元年までに設置されたことはよく御承知かと思えます。

施設については、平成二年三年と大規模改造の学校として指定を受け、二年には電気建築科棟の全面改修、三年には色染繊維科棟の大幅な改修が行われます。FAシステムやCAD・CAMの学習の導

入及び新設学科の染織デザイン科のスタートにあわせたよいタイミングの全面改修が行われたと思っております。

設備では、二年にFAシステムを整備を図り、FAパソコン、NC旋盤、マシニングセンター、ロボットを導入し、生徒の実習に供されております。また、CAD・CAM学習のために、三年八月にパソコンCADを導入し、二次元三次元製図の実習、FAシステムと連携した学習も可能になっております。

新設学科の染織デザイン科については、最新の画像処理システムをはじめ、ダイレクタージャカード、なつ染装置、コンピュータカラーマッチング装置、フルカラー複写機、自記分光光度計、手織機などの設備を導入し、伝統ある繊維系の学習を行ってきた本校の名に恥じないものにしていくと思っております。

なお、設備充実について、一部五十周年記念事業から応援をいただいております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

平成三年度 総会

今年度は役員改選期ではございませんでしたが、同窓会発展の支部結成・会報再刊・支部長会議開催等基盤確立に長年ご尽力頂きました佐藤富三会長さんが一身上の都合で勇退されました。

新たに満場一致で、第六代五十嵐健雄会長さんが誕生致しました。新規構想の下さらに発展されるものと確信致しております。

総会のご案内は各支部長さん経由で全会員の皆様にご出席頂きたくご連絡させて頂いております。今後その予定ですのでよろしくお願い致します。

総会も回を重ねる毎に出席者も増加致しております。

総会終了後懇親会を開催致しまして沢山の会員の皆様が旧交を温めておられます。

各支部におかれましても、設立総会が相次いで開催されその波は郊外にも達する勢いがあります。総会の開催も近年は、年中行事として定着してまいりました。各支部との連携の為に一人でも多くの総会への出席をお願い致します。

議事は次第に沿って進行され、報告事項・事業計画・予算案等につきまして慎重審議されました。

総会次第

一、開会のことば

同窓会副会長 五十嵐健雄

二、あいさつ

同窓会長 佐藤 富三
学校長 樽井 哲

三、議長選出

四、議事

① 報告第一号

平成二年度事業報告

平成二年度会計報告

② 報告第二号

支部設立経過報告

③ 報告第三号

第二号同窓会報について

④ 議案第一号

平成二年度事業計画

⑤ 議案第二号

平成三年度役員改選

五、その他

六、閉会のことば

同窓会副会長 池田 光二

総会終了後、同会場の産業文化会館「鶴の間」においてなごやかに懇親会が行なわれました。そのなかでも特に、全員による校歌の斉唱は強く心をうちました。

平成二年度事業報告

五月十八日（会計監査）

五月二十一日（正副会長会議）

桐雷会館において本部役員事務局十二名により行なわれました。支部設立・同窓会名簿等が中心議題

六月八日

六月十九日

第二号同窓会報編集委員会

正副会長会議・常任幹事会

事業計画の中心議題は、

総会を初めての試みとして

校外で行なう案件、他に同

窓会報が二十五年ぶりに再

刊される件等々。

七月十六日

平成二年度総会

本号のテーマとしても総

会長挨拶



会をとりあげましたが、産業文化会館の鶴の間で行なわれました。百名を越す参加者によつて盛大に行なわれました。

十月二十三日

第二号同窓会報編集委員会

十月三〇日

正副会長会議

第二号同窓会報発行の件

と第一回の支部長会議開催

十一月十八日

第二号会報「桐雷」発行

十一月二十八日

支部長会議

第一回の支部長会議が「

福よしの」にて開催されま

した、第一回ということも

あり、合計三十四名の関係

者に参集頂きました。

三年三月十八日

正副会長会議・編集委員会

第二号会報の反省と、支

総会にて



部設立の経過報告等、特に
新年度にむけての役員改選
も重要な議題になりました。

平成三年度事業計画

四月二十六日
正副会長会議

- ① 平成二年度事業報告
- ② 会計報告
- ③ 平成三年度事業計画案
- ④ 平成三年度予算案
- ⑤ 役員改選について

九月二十九日 第一 支部
十月十二日 第十一支部
十一月十四日 第十三支部

五月二十日 同窓会報編集委員会
六月二十日 常任幹事会
九月十八日 同窓会報編集委員会



総会後の懇親会

十月十一日 正副会長会議
十月三十日 第三号同窓会報発行
十一月十二日 支部長会議
四年一月下旬 各支部と連絡
二月中旬 各支部との規約・名簿等の整理
三月中旬 正副会長会議
事務局会議



常任幹事会(於桐雷会館)

支部結成経過報告

- 第一支部 徳永 達郎
二年九月二十九日
- 第二支部 小林 清
元年五月二十九日
- 第三支部 周東 正治
元年三月二十六日
- 第四・五支部 木村 広治
元年九月八日
- 第六支部 鈴木 康弘
二年二月三日
- 第九支部 村上 俊
元年四月二十二日
- 第十支部 峯崎 一男
元年二月十七日

- 第十一支部 下山 徹司
二年十月十二日
- 第十二支部 高橋定二郎
元年六月十五日
- 第十三支部 齊藤武三郎
二年十一月十四日
- 第十四支部 田中 周嗣
元年四月二十一日
- 第十五支部 松井 賢一
元年八月二十五日
- 第十六支部 田村 猛
二年七月二十八日
- 第十七支部 平賀 彰之
二年一月二十九日

第七支部・第八支部・第十八支部については、それぞれ、横塚秀男・新井嘉一・津久井弘、各氏が代表発起人として尽力されており、近い時期に支部設立総会の運びとなる予定です。

支部機構

最近多くのクラスが一泊のクラス会を催しておられます。この会報でも数クラスつづつご紹介させて頂いており、賜と感謝致しております。

同窓会では昭和六十三年よ

り桐生市内の支部設立をお願い致してまいりましたが、残り数支部が未設立ですが、現在誕生への動きも活発化しつつあります。又来年度以降は隣接地区等へのお願も企画中であり、

今後支部が拡大され、共に充実した支部運営が可能になります。ようにならば、各支部とクラス幹事さんが協議され、より活性化されました。支部運営が出来ます。よにご活躍をお願い致します。今後は、諸連絡につきましては、支部長さん経由で依頼申し上げたく存じます。



第一回 支部長会議

クラス会だより

還暦を迎えて

桐工一一会会長

新井庫太郎

昭和十九年四月桜の花が満開の時に桐工紡織科へ入学した私達。時恰も太平洋戦争の真最中で勉強もまま成らず農村や山村へ勤労奉仕の連続でした。先輩より受継がれてきました学舎の掃除、廊下も教室もコヌ力雑布で磨き上げられ光り輝いて玄間の廊下は顔が写り、傷がつかない様にとの配慮から校舎内での上履は禁じられていました。

掃除の方法も旧海軍の甲板掃除と同じで膝上までスポンを捲り上げ控室に正座で先輩より注意事項を聴いてから号令の元で掃除を開始、終了後整列して検査を受け、OKが出なければ何回でも初めからやり直してありました。その大

えられ、八十人を越す級友と成りました。

戦中戦後の激動の中を昭和二十四年三月桐工旧制第十一回で卒業した級友、昭和二十五年三月新制工高第二回で卒業した級友とに分れた為、同窓会名を桐工一イチャイ一会と命名し隔年毎に親交を深め、還暦を迎えたら毎年開催と約束、早いもので級友の殆んどが還暦を迎えたので、昨年続き今年も小川・高橋両君の幹事により、九月十六日十七日に伊香保の轟ホテルに正田順吉先生、星野常男先生をお迎え致し二十一名の参加で開催、一夜を想い出話に花を咲せたいに感激し、風呂で正田先生の背中を流し、涙した尾池君「これぞ慎の師弟の絆」と心うたれる一幕も有りました。

時代は移り変われどいつの世もこう有るべきと念じ乍ら、来年の幹事、三輪、森両君を指名、残念な事に七名の物故者がいるので故人のご冥福をお祈り致し、母校の発展と先生級友のご健勝を祈念し併せて来年の開催に大勢の参加を念じつつ筆をおきます。

切な校舎も十二月に中島飛行機製作所の桐生工場分工場として軍需工場と変り文字通り月月火水木金の休日無し戦争機の部品加工を致し、学舎とは欠け離れた状態でした。戦火をのがれて疎開をしいられ桐工に転校する級友が増加し一クラスであった紡織科は増員の為、二クラスに組替



伊香保・轟ホテル

老神・吟松亭「あわしま」



出席者

- 高瀬良一先生 桐ヶ谷晃三
- 今泉 栄二 小暮 照三
- 小池 利夫 坂田 弘
- 佐藤 昭司 山洞 亮
- 西山 良治 関口 欣作
- 荒川 精一 関口 泰司
- 井上 茂 高久 勇雄
- 大沢 文治 池田 光二
- 柿沼 徳郎 飯田 徳栄
- 神山 芳和 宮崎 精一

「弥竹会」開かれる

昭和二十一・二十二

年 紡織科卒業生

池田 光二

昭和二十一・二十二年度卒業のクラス会「弥竹会」が、平成三年七月十四日(土)に老神温泉の旅館、吟松亭「あわしま」で開催された。

全国各地から集まった同級生が、恩師高瀬良一先生を囲み楽しい一夜を過ごした。

「弥竹会」は卒業回数第八回・九回にちなみ高瀬先生

の命名によるもので、毎年一回県内の温泉地で開いている。「弥竹会」の素晴らしさは、会った瞬間に五十年前の少年の桐工生に戻ることで、夜の更けるのも忘れにぎやかな歓談が続いた。

～～～～

クラス会だより原稿募集

クラス会を開催または予定のクラスの方は、原稿をお寄せ下さい。

タイトルは別で本文四〇〇字前後、写真一枚程度。

尚、書式がありますので、桐工同窓会編集部までお問い合わせ下さい。

卒業アルバム

私の思い出

44 A 卒 寺林喜久一

私の桐工入学は昭和四十一年である。当時の正門は群大工学部側にあり玄関の前は一口タリーになっていた。木造で古い校舎だったが新入生の私にとって何か威厳を感じ、また学帽に憧れたこの学校に通えることを誇りに思ったものである。

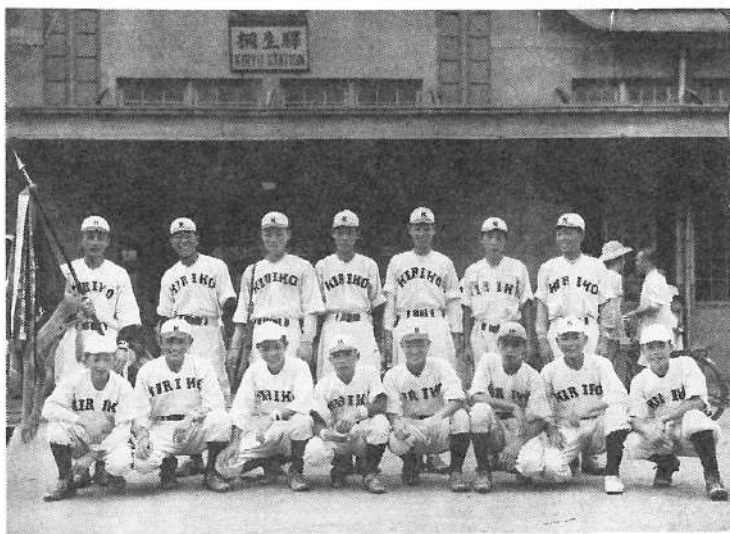
私は中学生の時、桐工の秋の行事として、まさしく北関東一と評判通りの『体育祭』といういろいろ工夫凝らし工業高校の特徴を十分発揮した『文化祭』を見学したことがあった。

私が入学した四一年度の秋の行事は『体育祭』であった。中学生の時見た華々しく迫力のある栈敷席での応援は見るに実際行うのとは大きな違いがあった。各科縦割りの団体抗そこには、それはそれは大変な準備（主に上級生）と試

練があつたのである。その試練とは私達一年生にとつて恐怖の応援練習である。『声が小さい』、『声が揃っていない』と何回も何回も練習させられた。心の中で三年になったら俺達かと思いつつ...

（しかし三年の時は校舎改築が始まりこの後しばらく体育祭がなかった。残念！）さて体育祭の当日、各団の応援栈敷席では趣向を凝らしたマスケットをバックにして、

各レース毎、熱のこもった応援合戦となった。我が建設科団も他の団に負けじと渾身の力を込めた声を出して応援を繰り広げた。つらい練習であったがいざ本番となると、これがまた不思議と燃えて来るもので（しかし応援リーダーの3年生は恰好よかつたなあ。各科対抗の意識がますます高くなるのを肌で感じた。北関東一と言われていた伝統である、この『体育祭』にちよつぴりの自慢と誇りを持って参加できたことが印象深い。



野球部の歴史と

甲子園出場

硬式野球部監督

48 A 卒 松村喜美

群馬の高校野球は、明治30年に前高（旧前中）に野球部が創立して始つた。

大正11年に桐高（旧桐中）に部が創立され、昭和9年に県下14番目に本校硬式野球部が発足した。前年に桐高が初の選抜出場を果たした時。

本校が甲子園に近づいたの

甲子園初出場

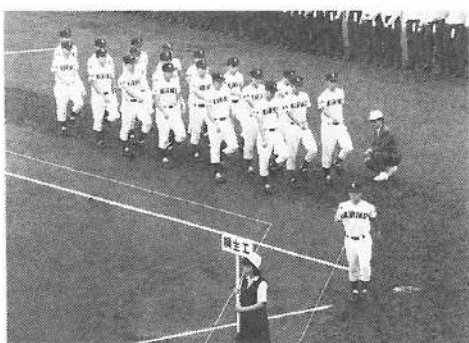
昭和二十一年八月

この間に、チーム数は倍増し現在は61校になった。

近年では、58年夏の大会で投手松村（現在東芝）を擁して勝ち進んだが準決勝で敗退。61年には好投手波多野も春準優勝したが夏は準決で涙。

今年の新しいチームも、秋季大会は一回戦負け。本来持っている力を出しきれないでいる。どうしたら出せるのか？

新しいチームも可能性のあるチーム。私自身の甘さを排し、投手力・精神力・チームワークの強化を図り甲子園出場を果したい。選手達も、自分達の甘さをおもい知らされたようである。選手のためはもちろんの事、桐工生、桐工のためにも硬式野球部が甲子園へ駒を進めなければならない。



平成3年度 群馬大会

学校だより

開校記念日

『小林定年氏講演』

本年度の開校記念日は、本校卒業で、昨年「現代の名工」として労働大臣より表彰された。紋織物（ジャガード）意匠図案師の小林定年氏をお招きし、「名工への道のり」と題して、意匠師となるための修行や、父親に師事しての話などを交えながら、現在御自身が取り組んでおられる紋織物について一時間半に渡って講演をして頂きました。



講演中の小林氏

小林定年氏略歴

昭和二六年本校染織科卒業

三〇年米沢市へ移住

四三年小林紋織物研究所設立、代表取締役

この間、全国織物競技大会最高技術賞三回、同感謝状二回など、計四六賞を受賞。

昨年度「現代の名工」として労働大臣より褒章受賞。

水泳部

顧問 平田明仁

現在、高校生の出場する大会は、県高校総体、県高校新人戦、国体予選と関東大会の県予選会である。

県高校新人戦では、関東大会へ個人で出場した選手を除く一、二年生が出場できる。

わが校は、今年度一人も関東大会へ行けなかったため、三年生一人を除き、全員新人戦出場となった。

谷茂夫、丹羽孝宣の二人は

自分の得意種目ではなかったが、それぞれ二種目ずつ優勝。佐藤雄大も平泳ぎに二種目優勝。加えてリレー・メドレーリレー計三種目に優勝し、出場十五種目のうち九種目に優勝二種目二位に入った。

中でも四百メートルリレーでは、県総体で出した記録より速いタイムで、来年を期待させる出来であった。

最近の成績

五九年〜平二年、関東大会連続出場

六〇年度〜六三年度、インタ

ーハイ連続出場

六二年度県高校総体優勝

四百mMR一位大会新

(高橋 斉藤 茅野 諸戸)

八百mFR一位大会新

(大沢 斉藤 茅野 高橋)

百m・二百mBa一位大会新

高橋伸武/二百m・四百mI

M一位大会新 斉藤健太郎

県高校新人戦

百m・二百mBr一位

新井 謙

六三年度県高校総体優勝

四百mMR一位(高橋 新井 謙 井上 新井章則)

八百mFR一位(高橋 須藤

白田 新井章則) / 二百m・四百m個人IM一位 高橋伸武

県高校新人戦

四百mFR一位 新井章則

H元年度・県高校総体四位

四百m/八百mFR一位(大森 須藤 白田 新井章則)

百m・二百mFR一位 新井章則

H二年度・県高校総体三位

県高校新人戦

二百mFly・四百m個人IM一位 安達 健/二百mFR一位 小島宏之

H三年度・県高校総体四位

県高校新人戦

四百mMR一位

(加藤 佐藤 谷 丹羽)

四百m・八百mFR一位

(小島 周東 谷 丹羽)

五〇mFR・二百mIM一位

谷 茂夫/百mFly・四百mIM一位 丹羽孝宣/百m・二百mBr一位 佐藤雄大

略号解説

リレー FR/平泳ぎ Br

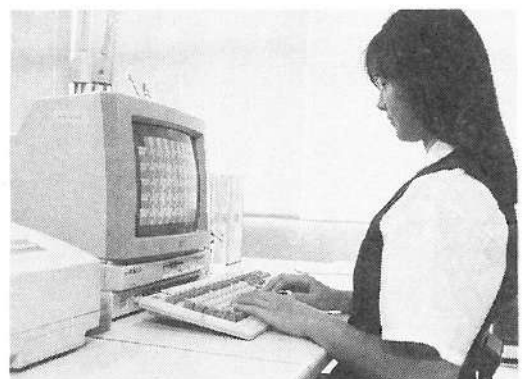
メドレーリレー MR/自由形 FR/背泳ぎ Ba/個人メドレー IM/バタフライ Fly

染織デザイン科新設

桐工創立以来五千人余の卒業生を送り出し、地元織物界を始め桐生市の発展に多大な貢献をしてきた色染化学科、繊維工学科が、中学卒業生の減少にともない、新たな生徒の募集を停止しました。

そして新たに二つの学科を有機的に結合させた「染織デザイン科」が新設されました。

この四月には男子二〇名、女子二一名計四一名の生徒が入学してきました。ただいま織物関係・デザインの専門技術者を目指して勉強中です。



コンピュータデザイン実習

事務局だより

平素より同窓会の事業につきまして、格段のご理解と、ご協力を頂きましてありがとうございます。

支部の設立も昭和六十三年十月に代表発起人会を開催して以来、三年を経過いたしました。

桐生市内十八区の設立も順調に進み、殆んどどの区が設立されました。

昨年十一月二十七日に支部長会議が実施され、各支部の支部長さんより、活動内容や取り組み状況の報告がありました。いくつかご報告いたします。

○各支部の規約も充実され、会員相互の親睦も深まってきた。

○地区役員との連携により活性化が図られた。

○年一回支部総会を開催することにより、会員の輪が広がってきた。

等、沢山の報告を頂きました。支部長さんを中心に、地区役員、会員の皆様方が一つになり、増々一体化された支部

組織となりましますように、事務局といたしましても、微力ではありますが、お手伝いをさせて頂こうと思っております。

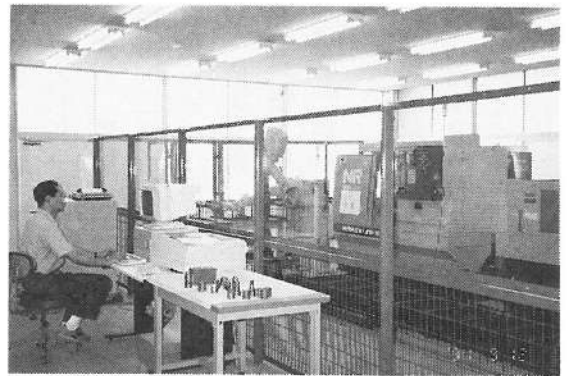
また、桐生近接市町村におきましても、支部結成のお話しがでております。

校歌

一、朝日輝く妙なる色に染めなす匂うエの技を修め究めむ我等ののぞみ
桐生工業 桐生工業

二、夕日赤城に映ろう色を利根の流にといしつそめつ織れよ桐生の文化の錦
桐生工業 桐生工業

三、永遠に新たに進まん国の若き息吹を豊けく受けて伸ばせ学舎栄えある母校
桐生工業 桐生工業



新規導入された

NC旋盤
マシンングセンター
□ポット

お知らせ

近年某新聞社等による「母校恩師についての思い出」なるものが刊行されています。

学校にも問い合わせが相次いでいますが、学校、同窓会とは無関係であり、新聞社・出版社等に依頼するようなこともしておりません。

お間違いないならないよう充分御注意下さい。

編集後記

昨年引き続き、同窓会報第三号をお届けいたします。ここ数年、学校当局並びに同窓会役員等の尽力により、各地区に支部が結成され、特色ある活動を続けています。

前号では、各支部の結成状況をお知らせしました。今号は、同窓会活動の核ともいえる総会記録を主として編集しました。

また、「卒業アルバム」として、思い出のページをつくらせてみました。

野球部の歴史の中で、昭和二十一年の北関東大会での優勝アルバム、感激の甲子園初出場などなど。

編集担当一同、スマートフォンを主眼として編集しました。さらに、当会報が充実するためにも、同窓諸氏のご意見をお待ちしています。

卒業生数

平成三年三月現在(含附中)

○全日制

- 色染化学科 二、二〇八名
- 繊維工学科 二、四九七名
- 機械科 三、五八一名
- 電気科 二、六四三名
- 土木科 七四五名
- 建築科 一、〇八九名
- 定時制
- 機械科 一、一八九名
- 繊維科 六四七名
- 電気科 四六〇名

総数 一五、〇五九名

